



第64回全国小学校社会科学研究協議会研究大会
第46回四国社会科教育研究大会

徳島大会

令和8年11月19日(木)
20日(金)



徳島大会

**未来に向けて考え続け、よりよい社会を
切り拓く子どもの育成**

－社会に対する認識**と**判断する力**を育む
社会科学習－**

**令和8年11月19日(木)
20日(金)**

大会主題

未来に向けて考え続け、よりよい社会を切り拓く子どもの育成 —社会に対する認識と判断する力を育む社会科学習—

【社会の情勢とめざす教育の方向性】

子どもが18歳成人として生きていく、今後の未来を予測することは今までよりさらに困難
一人一人が社会の創り手となり、持続可能でウェルビーイングが実現されるよりよい社会の実現、発展をめざす

めざす子ども像

社会の特色や意味などが分かるとともに、根拠や理由をもって自分の考えを決める力を身につけ、他者とともに社会の在り方を考える。そして、未来に向けて考え続け、社会の創り手として、よりよい社会を協働して切り拓いていくことができる子ども



社会に対する認識と判断する力を育む社会科学習

研究内容
1

単元構想と振り返り

(1) 単元構想の方策

(子どもの意識がつながる単元にする方策)

① 日常的アプローチ

単元前から関心を高めたり見取ったりして意識がつながるようにする

② 学習問題づくり

教材との出会いを工夫
・切実性や当事者性を高める
・社会的事象との心理的な距離を縮める

③ 個の追究と全体での共有

・追究する内容や方法を自己決定して学習を調整する場を適宜設定
・個の追究と全体での共有を結び付けて学びを深める

(2) 振り返りの方策

(子どもの意識をつなげる振り返りの方策)

① 振り返りの観点

ア. 自分の学習や変容を自覚する
観点
イ. 今後の学習や生活へとつながる
観点

② 考えの見取りと活用

見取りを充実させ、単元の修正や判断する場面の設定に生かす
(デジタル学習基盤も活用して)

研究内容
2

判断する場面の設定

(1) 柔軟な場面設定

判断する力は繰り返し経験することで少しずつ高まる力であると捉え、弾力的に取り入れる

① 社会への関わり方を考える選択・判断【A】
社会に見られる課題を明確に捉えた上で、解決に向けた
社会の在り方や自分たちができること・協力できることなどを考える判断

学習指導要領で
求められる判断

② 深く分かることや見通しにつながる判断

○ 深く分かることにつながる判断【B】
・社会の特色や意味に迫ることに重点を置いた判断
・あえて立場を決めて考えることで、学んだことを主体的に活用し、他者との対話を通じて考えを多角化させる

学習指導要領の目標・趣旨
の実現に向けた
徳島県独自の判断

○ 見通しにつながる判断【C】

・単元や授業の導入時に行うことが多い、予想を含む判断
・既習事項や資料などを基にいったん立場を決めることで、「何を調べるべきか」等の強い動機や問題意識を生じさせ、追究の見通しをもたせる

(2) 判断への意欲を高める工夫

教師が唐突に判断を迫るのではなく、矛盾・対立・葛藤・相違(ズレ)・情意(感情)・課題の明確化などの要素に注目して工夫することで、「話し合いたい」「聞いてみたい」のように意欲を高める

研究内容
3

考えを深める手だて

視点や立場を意識して、考えを深める手だてを講じる

(1) 発問・言葉かけ

ゆさぶる、焦点化する、具体化する・一般化する、整理する、子ども同士をつなぐ、確認するなどの意図的な問いかけにより、自らの考えを立ち止まって見直し、別の視点や立場から考え、本質的な部分へ迫るようにする

(2) 資料提示

発問・言葉かけの要素も意識して資料を提示し、新しい情報から発想が広がるようにしたり、焦点化して思考が深まるようにしたりする

(3) 板書・ツール

議論の流れや対立点、考えの立ち位置を可視化し、建設的に議論を進めることができるようにする

社会のことが
深く分かる

根拠や理由を
もって決める

認識



判断する力



単元構想と振り返り

判断する場面の設定

考えを深める手だて



認識と判断する力の関わり

認識

判断

認識

判断

認識

判断

相互に関わりながら、成長する

研究内容

【研究内容1】単元構想と振り返り

- (1)単元構想の方策
- (2)振り返りの方策

【研究内容2】判断する場面の設定

- (1)柔軟な場面設定
- (2)判断への意欲を高める工夫

【研究内容3】考えを深める手だて

- (1)発問・言葉かけ (2)資料提示
- (3)板書・ツール

大会主題

未来に向けて考え続け、よりよい社会を切り拓く子どもの育成 —社会に対する認識と判断する力を育む社会科学習—

【社会の情勢とめざす教育の方向性】

子どもが18歳成人として生きていく、今後の未来を予測することは今までよりさらに困難
一人一人が社会の創り手となり、持続可能でウェルビーイングが実現されるよりよい社会の実現、発展をめざす

めざす子ども像

社会の特色や意味などが分かるとともに、根拠や理由をもって自分の考えを決める力を身につけ、他者とともに社会の在り方を考える。そして、未来に向けて考え続け、社会の創り手として、よりよい社会を協働して切り拓いていくことができる子ども



社会に対する認識と判断する力を育む社会科学習

研究内容 1 単元構想と振り返り

(1) 単元構想の方策 (子どもの意識がつながる単元にする方策)

① 日常的アプローチ

単元前から関心を高めたり見取ったりして意識がつながるようにする

② 学習問題づくり

教材との出会いを工夫
・切実性や当事者性を高める
・社会的事象との心理的な距離を縮める

③ 個の追究と全体での共有

・追究する内容や方法を自己決定して学習を調整する場を適宜設定
・個の追究と全体での共有を結び付けて学びを深める

(2) 振り返りの方策 (子どもの意識をつなげる振り返りの方策)

① 振り返りの観点

ア. 自分の学習や変容を自覚する
観点
イ. 今後の学習や生活へとつながる
観点

② 考えの見取りと活用

見取りを充実させ、単元の修正や判断する場面の設定に生かす
(デジタル学習基盤も活用して)

研究内容 2 判断する場面の設定

(1) 柔軟な場面設定

判断する力は繰り返し経験することで少しずつ高まる力であると捉え、弾力的に取り入れる

① 社会への関わり方を考える選択・判断【A】
社会に見られる課題を明確に捉えた上で、解決に向けた
社会の在り方や自分たちにできること・協力できることなどを考える判断

学習指導要領で
求められる判断

② 深く分かることや見通しにつながる判断

○ 深く分かることにつながる判断【B】
・社会の特色や意味に迫ることに重点を置いた判断
・あえて立場を決めて考えることで、学んだことを主体的に活用し、他者との対話を通じて考えを多角化させる

学習指導要領の目標・趣旨
の実現に向けた
徳島県独自の判断

○ 見通しにつながる判断【C】

・単元や授業の導入時に行うことが多い、予想を含む判断
・既習事項や資料などを基にいったん立場を決めることで、「何を調べるべきか」等の強い動機や問題意識を生じさせ、追究の見通しをもたせる

(2) 判断への意欲を高める工夫

教師が唐突に判断を迫るのではなく、矛盾・対立・葛藤・相違(ズレ)・情意(感情)・課題の明確化などの要素に注目して工夫することで、「話し合いたい」「聞いてみたい」のように意欲を高める

研究内容 3 考えを深める手だて

視点や立場を意識して、考えを深める手だてを講じる

(1) 発問・言葉かけ

ゆさぶる、焦点化する、具体化する・一般化する、整理する、子ども同士をつなぐ、確認するなどの意図的な問いかけにより、自らの考えを立ち止まって見直し、別の視点や立場から考え、本質的な部分へ迫るようにする

(2) 資料提示

発問・言葉かけの要素も意識して資料を提示し、新しい情報から発想が広がるようにしたり、焦点化して思考が深まるようにしたりする

(3) 板書・ツール

議論の流れや対立点、考えの立ち位置を可視化し、建設的に議論を進めることができるようにする

研究内容1 単元構想 と 振り返り



子どもの意識がつながる**単元構想**

- 日常的アプローチ
- 学習問題づくり
- 個の追究と全体での共有

子どもの意欲と見通し
一人一人にとって
よりよい学び



子どもの意識をつなげる**振り返り**

- 自分の学習や変容を自覚する観点
- 今後の学習や生活へとつながる観点

大会主題

未来に向けて考え続け、よりよい社会を切り拓く子どもの育成 —社会に対する認識と判断する力を育む社会科学習—

【社会の情勢とめざす教育の方向性】

子どもが18歳成人として生きていく、今後の未来を予測することは今までよりさらに困難
一人一人が社会の創り手となり、持続可能でウェルビーイングが実現されるよりよい社会の実現、発展をめざす

めざす子ども像

社会の特色や意味などが分かるとともに、根拠や理由をもって自分の考えを決める力を身につけ、他者とともに社会の在り方を考える。そして、未来に向けて考え続け、社会の創り手として、よりよい社会を協働して切り拓いていくことができる子ども



社会に対する認識と判断する力を育む社会科学習

研究内容
1

単元構想と振り返り

(1) 単元構想の方策

(子どもの意識がつながる単元にする方策)

① 日常的アプローチ

単元前から関心を高めたり見取ったりして意識がつながるようにする

② 学習問題づくり

教材との出会いを工夫
・切実性や当事者性を高める
・社会的事象との心理的な距離を縮める

③ 個の追究と全体での共有

・追究する内容や方法を自己決定して学習を調整する場を適宜設定
・個の追究と全体での共有を結び付けて学びを深める

(2) 振り返りの方策

(子どもの意識をつなげる振り返りの方策)

① 振り返りの観点

ア. 自分の学習や変容を自覚する
観点
イ. 今後の学習や生活へとつながる
観点

② 考えの見取りと活用

見取りを充実させ、単元の修正や判断する場面の設定に生かす
(デジタル学習基盤も活用して)

研究内容
2

判断する場面の設定

(1) 柔軟な場面設定

判断する力は繰り返し経験することで少しずつ高まる力であると捉え、弾力的に取り入れる

① 社会への関わり方を考える選択・判断【A】
社会に見られる課題を明確に捉えた上で、解決に向けた
社会の在り方や自分たちにできること・協力できることなどを考える判断

学習指導要領で
求められる判断

② 深く分かることや見通しにつながる判断

○ 深く分かることにつながる判断【B】
・社会の特色や意味に迫ることに重点を置いた判断
・あえて立場を決めて考えることで、学んだことを主体的に
活用し、他者との対話を通じて考えを多角化させる

学習指導要領の目標・趣旨
の実現に向けた
徳島県独自の判断

○ 見通しにつながる判断【C】

・単元や授業の導入時に行うことが多い、予想を含む判断
・既習事項や資料などを基にいったん立場を決めることで、「何を調べるべきか」等の強い動機や問題意識を生じさせ、追究の見通しをもたせる

(2) 判断への意欲を高める工夫

教師が唐突に判断を迫るのではなく、矛盾・対立・葛藤・相違(ズレ)・情意(感情)・課題の明確化などの要素に注目して工夫することで、「話し合いたい」「聞いてみたい」のように意欲を高める

研究内容
3

考えを深める手だて

視点を意識して、考えを深める手だてを講じる

(1) 発問・言葉かけ

ゆさぶる、焦点化する、具体化する・一般化する、整理する、子ども同士をつなぐ、確認するなどの意図的な問いかけにより、自らの考えを立ち止まって見直し、別の視点や立場から考え、本質的な部分へ迫るようにする

(2) 資料提示

発問・言葉かけの要素も意識して資料を提示し、新しい情報から発想が広がるようにしたり、焦点化して思考が深まるようにしたりする

(3) 板書・ツール

議論の流れや対立点、考えの立ち位置を可視化し、建設的に議論を進めることができるようにする

学習指導要領をふまえた上で、授業者の創意工夫を生かして、弾力的に判断する場面を取り入れる。

A
社会への関わり方を
考える選択・判断

B
深く分かることに
つながる判断

C
見通しに
つながる判断

学習指導要領

で求められる判断

**学習指導要領の趣旨を実現するための
徳島県独自の判断**

「令和4年度 学習指導要領実施状況調査」をふまえた本県の研究の意義

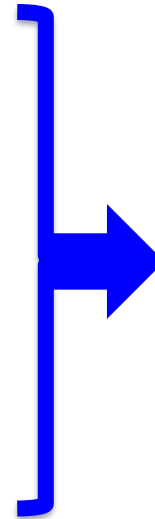
○社会に見られる課題を踏まえて、よりよい社会を
考えるようにする指導の充実



社会への関わり方を
考える選択・判断【A】

○社会的事象の見方・考え方を働かせ、社会的事象
の特色や意味を考え、説明したり、自分の考えを
主張したりできるようにする指導の充実

○学習で身に付けた知識や技能を使って一人一人が図
や文などにまとめることができるようにする指導の充実



深く分かることに
つながる判断
【B】

○学習問題を考え、問題解決の見通しをもつようにする
指導の充実



見通しに
つながる判断
【C】

判断への意欲を高める工夫

矛盾 対立 葛藤 相違(ズレ)
情意(感情) 課題の明確化 など

自分は賛成！
みんなは？

どれを選ん
だら...

えっ、
なんで？

へんだよ？

おかしいよ？



子どもの
内に「問い」が
芽生える

大会主題

未来に向けて考え続け、よりよい社会を切り拓く子どもの育成 —社会に対する認識と判断する力を育む社会科学習—

【社会の情勢とめざす教育の方向性】

子どもが18歳成人として生きていく。今後の未来を予測することは今までよりさらに困難
一人一人が社会の創り手となり、持続可能なウェルビーイングが実現されるよりよい社会の実現、発展をめざす

めざす子ども像

社会の特色や意味などが分かるとともに、根拠や理由をもって自分の考えを決める力を身につけ、他者とともに社会の在り方を考える。そして、未来に向けて考え続け、社会の創り手として、よりよい社会を協働して切り拓いていくことができる子ども

認識

社会の特色や意味などが深く分かる



判断する力

根拠や理由をもって自分の考えを決める力

2012～2015年度 認識を中心とした研究

他者とともに社会の在り方を考える

2002～2011年度 判断を中心とした研究

2016年度より 認識と判断をバランスよく育む研究

社会に対する認識と判断する力を育む社会科学習

研究内容

1 単元構想と振り返り

(1) 単元構想の方策

(子どもの意識が広がる単元にする方策)

① 日常的アプローチ

単元前から関心を高めたり見取ったりして意識が広がるようにする

② 学習問題づくり

教材との出会いを工夫
・切実性や当事者性を高める
・社会的事実との心理的な距離を縮める

③ 個の追究と全体での共有

・追究する内容や方法を自己決定して学習を調整する場を適宜設定
・個の追究と全体での共有を結び付けて学びを深める

(2) 振り返りの方策

(子どもの意識を広げる振り返りの方策)

① 振り返りの観点

ア、自分の学習や変化を自覚する観点
イ、今後の学習や生活へとつながる観点

② 考えの見取りと活用

見取りを充実させ、単元の修正や判断する場面の設定に生かす
(デジタル学習基盤も活用して)

研究内容

2 判断する場面の設定

(1) 柔軟な場面設定

判断する力は繰り返し経験することで少しずつ高まる力であると捉え、弾力的に取り入れる

① 社会への関わり方を考える選択・判断【A】

社会に見られる課題を明確に捉えた上で、解決に向けた
社会の在り方や自分たちにできること・協力できることなどを考える判断

学習指導要領で
求められる判断

② 深く分かることや見通しにつながる判断

○ 深く分かることにつながる判断【B】

・社会の特色や意味に迫ることに重点を置いた判断
・あえて立場を決めて考えることで、学んだことを主体的に活用し、他者との対話を通じて考えを多角化させる

学習指導要領の目標・内容
の実現に向けた
徳島県独自の判断

○ 見通しにつながる判断【C】

・単元や授業の導入時に行うことが多い、予想を含む判断
・既習事項や資料などを基にいったん立場を決めることで、「何を調べるべきか」等の強い動機や問題意識を生じさせ、追究の見通しをもたせる

(2) 判断への意欲を高める工夫

教師が衝突に判断を迫るのではなく、矛盾・対立・葛藤・相違(ズレ)・情意(感情)・課題の明確化などの要素に注目して工夫することで、「話し合いたい」「聞いてみたい」のように意欲を高める

研究内容

3 考えを深める手だて

視点や立場を意識して、考えを深める手だてを講じる

(1) 発問・言葉かけ

ゆさぶる、焦点化する、具体化する・一般化する、整理する、子ども同士をつなぐ、確認するなどの意図的な問いかけにより、自らの考えを立ち止まって見直し、別の視点や立場から考え、本質的な部分へ迫るようにする

(2) 資料提示

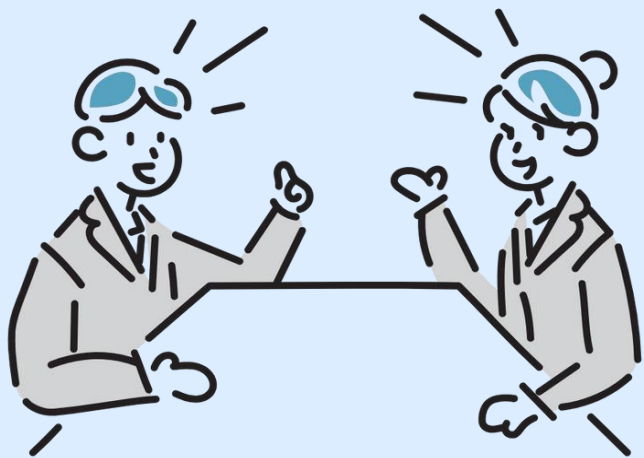
発問・言葉かけの要素も意識して資料を提示し、新しい情報から発想が広がるようにしたり、焦点化して思考が深まるようにしたりする

(3) 板書・ツール

議論の流れや対立点、考えの立ち位置を可視化し、建設的に議論を進めることができるようにする

研究内容3 考えを深める手だて

発問・言葉かけ



資料提示



板書・ツール

1日目 令和8年11月19日(木)

全体会

あわぎんホール(徳島県郷土文化会館)



2日目 令和8年11月20日(金)

会場別研究会

第1会場 徳島市 すけとう 助任小学校



2日目 令和8年11月20日(金)

会場別研究会

第2会場 徳島市 おきのす 沖洲小学校



全体指導講師

文部科学省 初等中等教育局
教育課程課 教科調査官

小倉 勝登 先生

記念講演

阿波十郎兵衛屋敷 館長

佐藤 憲治 氏

第1会場(助任小)指導講師

大妻女子大学 教授

澤井 陽介 先生

第2会場(沖洲小)指導講師

帝京大学 教授

鎌田 和宏 先生

第64回全国小学校社会科研究協議会研究大会
第46回四国社会科教育研究大会



徳島大会



令和8年11月19日(木)
20日(金)

四国・徳島の地で、皆様と共に
学び合えることを楽しみにしております

